

暗闇の中の光

家 山 華 子

奨励者紹介 [いえやま・はなこ]

日本キリスト教団箕面教会牧師

イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

「ゼブルンの地とナフタリの地、
湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、
異邦人のガリラヤ、
暗闇に住む民は大きな光を見、
死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」

そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

(マタイによる福音書 4章 12—17 節)

今、NHKの土曜9時に放送されているドラマに女性の牧師が出てきます。俳優の山口智子さんが牧師の役を演じています。このドラマは『正義の天秤』というタイトルで、法律事務所をめぐる人間模様を描

いています。その中で山口智子さんが演じる女性の牧師は、若い女性の弁護士が幼い頃からかかわっている教会の牧師で、いろいろと相談に乗るという立場なのですが、いわゆる男性的な牧師のイメージではなく、その人らしいダボツとした普段着で出ているので、いいなと思いました。

教会の中では、女性の牧師が増えてきているように思いますが、私が知る限り、日本のドラマで牧師の役があるとしても、大体は男性か外国人だったのではないかと思います。こうして社会の中でもスポットライトを当ててもらえると、うれしいものです。このように少しずつ認知されていったらいいなと思います。

今まで光が当たらなかったところに光を当てる。この視点は、イエス・キリストの働きとも共通します。今日は、聖書の中でイエス・キリストがどこに目を注いでいるのかを見ながら、私たちの歩む道についても、ご一緒に見つめることができればと願っています。

異邦人のガリラヤ

今日の聖書箇所最初のところで、洗礼者ヨハネが捕らえられたことが主イエスの耳に入ったと記されていました。洗礼者ヨハネは、権力者であったヘロデに対して忤度をせず、耳の痛いことをはっきり言う人でした。当時ヘロデは、自分の兄弟の妻であったヘロディアと結婚していて、そのことが当時のユダヤの法に反していると、ヨハネはヘロデを批判したのです。それを知ったヘロデは、ヨハネを捕らえて牢屋に入れ、最終的には死刑にしまいました。この洗礼者ヨハネの最期は、これから始まる主イエスの働きの

終わりを指し示しているかのようです。

主イエスは、洗礼者ヨハネが死んだという報告を聞いて、ガリラヤに戻りました。ガリラヤには、主イエスの故郷であるナザレの町があります。しかしこの時、主イエスは故郷に戻って家族と一緒に暮らすためにガリラヤに戻ったわけではありません。そこで働きをスタートするため、ガリラヤ湖畔の町、カファルナウムに行きました。主イエスは今こそ、活動を始める時だと悟ったのです。

いつ、どこで、どんな仕事をするか、私たちは将来の道に悩むことがあります。それほど簡単に「神さまの御心によって」という言葉では語り尽くせないと思います。主イエスは旧約聖書を読んでいました。イスラエルの歴史を知る中で、自分がどこで働くべきなのかを考えていたと思います。故郷で受け入れられなかったという経験もしたでしょう。それらを通して、「ここで働く。この道で良いのだ」と、祈りつつ、決心へと導かれていったのです。

ここでは特に、主イエスが活動の場所を選んだ、カファルナウムという場所に注目したいと思います。イスラエルの人たちにとって、最も重要な町と言えばどこでしょうか。それは、神殿があるエルサレムの都です。カファルナウムは、そのエルサレムから遠く離れた町です。エルサレムから遠く離れたガリラヤ湖畔の小さな町で、主イエスは宣教活動を始められたのです。

しかもそこは、エルサレムから離れているだけでなく、人々から軽蔑されていた場所でした。ユダヤの人たち、特に聖書に度々出てきて主イエスと敵対する、律法学者やファリサイ派の人たちは、ユダヤ人同士の共同体の中で、律法を守って生きている自分たちを誇りに思っていました。そして、民族も宗教も異なる、異邦人が多く住んでいたガリラヤの地域のことを「異邦人のガリラヤ」と言って低く見ていたのです。現代の私たちの価値観で見れば、異邦人のガリラヤの方が多様性があって良いと思うのですが、当時のユダヤの価値観では、異質なものが混じり合うこの地域は見下げられていました。その異邦人のガリラヤで、主イエスは宣教を始められたのです。

皆さんの考える、異邦人のガリラヤとは、どのようなところでしょうか。人々に注目されないところ、いわば社会の中の影のようなところに住む人々は、どのような人が思い浮かぶでしょうか。私は、2016年に起きた相模原障害者施設殺傷事件を思い起こしました。事件を起こした植松聖という人は、言葉話すことができない障がい者は生きていてもしょうがない、との考えから話せない障がい者を殺してしまいました。とても痛ましい事件です。私は、牧師をする前に発達障がいをもつお子さんたちとかかわる仕事をしていました。たとえ言葉話すことができなくても、一人ひとりには心があって、視線の動きや表情など、さまざまな手段でサインを出しています。言葉をはさめる人だけを中心にした狭い世界を基準に考えるなら、言葉をはさめない障がい者、病を負った方、かん黙の人たちや言葉を獲得していない赤ちゃんは見下され、モノのように扱われ、隅に追いやられてしまいます。異邦人のガリラヤです。主イエスは、そのように見下され、人として尊重されず、社会の隅に追いやられている人々に、特に目を注がれたのです。

暗闇の中の光

ガリラヤの周辺は、エルサレムから離れているというだけでなく、歴史的にも長い間苦難を味わってきました。主イエスはここで旧約聖書のイザヤ書の言葉を引用しています。「地を見渡せば、見よ、苦難と闇、暗黒と苦悩、暗闇と追放。今、苦悩の中にある人々には逃れるすべがない。先に／ゼブulunの地、ナフタリ

の地は辱めを受けたが／後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた／異邦人のガリラヤは、栄光を受ける。闇の中を歩む民は、大いなる光を見／死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた」（イザヤ書8章 22節—9章1節）。

この言葉が語られた預言者イザヤの時代、ゼブルンの地、ナフタリの地がある北イスラエル王国は戦争中でした。間もなく大国アッシリアに滅ぼされてしまうという危機的な状況にありました。存続の危機です。この地に住む人々は、先の見えない暗闇の時代を生きていたのです。しかし、暗闇の中にある人々に向かって、あなたがたはやがて、大いなる光を見ると、イザヤは確信をもって預言したのです。暗闇の中にいる人々に、光は見えません。預言者イザヤが「光が輝いた」と過去形で語っているのは、未来に起こる出来事を強調するためです。すでに起こったことのように、確信をもって未来の希望を語っているのです。そして、この時のイザヤの預言が、主イエスによって実現したのだと、マタイは語ります。エルサレムの都から遠く離れた異邦人のガリラヤ、カファルナウムに、主イエスは目を注がれました。人々から低く見られていた暗闇の中に住む人々のところに、主イエスは真っ先に行って、そこに光を当てられたのです。

暗闇の中に光を見る

私は、今は日本キリスト教団の牧師をしていますが、以前にはこのような道を全く考えていませんでした。もともと私は日本キリスト改革派教会に通っていて、家族も同じ教会に通っていました。発達相談の仕事をしている中で、聖書に基づいて相談を受けることができる人になりたいと思い、教派の神学校に行きました。当時、改革派教会では女性の牧師は認められておらず（現在は認められています）、私も牧師になることを考えてはいなかったのですが、周りの人たちの期待の声を耳にするようになり、自分がどうしたいのか分からなくなってしまいました。当時の私は、自分の気持ちが分からない、どうしたらいいのか分からないという暗闇と、教会の制度が女性の牧師を認めていないという両方の暗闇の中にいました。そんな私に、以前神学校の校長もしておられた牧師が「神様の働きは改革派の中だけじゃない」と言ってくださり、この言葉が私の背中を押してくれました。その後、関西学院大学の大学院に行き、さまざまな女性の牧師に出会う機会が与えられ、「私は私のままで、牧師をやっているのかもしれない、『御言葉を語りたい』という小さな思いを大切にしたいのだ」と思い、日本キリスト教団に転会して、牧師になる道を目指しました。

今、牧師になって7年目ですが、いつの間にかその頃のことを忘れてしまっていました。音楽をやっている友人が、新型コロナウイルスの影響でコンサートができなかった時の苦しみ、できるようになった今の思いを共有してくれた時、自分も牧師として語ることを認められない世界から来ていたことを、いつの間にか忘れてしまっていた自分に気づかされました。自分がどこから導かれてきたのか、そのことを覚えていることと、暗闇の中にいる人に目を向けることは、つながっているのだと思います。

暗闇の中の光として来られた主イエスは、私たちの暗闇に光を当てて、導き出してくださいます。そのことをまずは信頼したいと願います。そして、私たちの社会の暗闇にも、しっかりと目を向けたいのです。コロナ下で仕事を失い、ハローワークに仕事を求めてやってくる人々の列の中に、主イエスはおられます。また、炊き出しに並ぶ列の中に、主イエスはおられるのです。私たちは、自分の世界でいっぱいになってしまいます。自分の狭い世界の中だけで物事を考えてしまいがちです。しかし、心の目を開いて、この社

会にある暗闇から目を逸らすことのないように、しっかりと見つめたいと願います。暗闇の深いところに、主イエスの光が輝くことに信頼し、そこから、私たちの歩む道を考えていければと願います。

暗闇の中の光として来られたキリストが、今も私たちの暗闇に来てくださって、愛の光を灯してください。この光を私たちだけのものにするのではなく、社会の中で見えなくされている人々に光を灯し、その声に耳を傾けることができるように、祈り求めましょう。

〔注〕

I NHK総合にて2021年9月25日—10月23日放送。

2021年10月6日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録